

明治村 だより

夏号 Vol. 44

目次

- 赤坂離宮の家具
朝日之間・孔雀之間の家具を中心に……………2
- ワークショップ 明治の大発明「ガラ紡」……4
- 夏の明治村—催しものご案内……………6
- A La Meiji-mura ……………7



大正時代 安藤鶴兵衛画
明治九年 植木村之板
定儀之絵



平成18年6月24日発行
「明治村だより」第44号 (平成18年 夏)

発行 博物館明治村
〒484-0000 愛知県犬山市内山一丁目
電話 (0568) 67-0314
◎ホームページ <http://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第45号発行のお知らせ
発行時期 平成18年8月末(予定)
申込方法 「明治村だより」第45号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

赤坂離宮の家具

朝日之間・孔雀之間の家具を中心に

明治村に赤坂離宮で使用された家具が数多く所蔵されていることはこの「明治村だより」で度々紹介させていただいています。今回は明治村所蔵の家具の中から、赤坂離宮の第一客室「朝日之間」、「孔雀之間」の二室の家具を紹介させていただきます。

朝日之間

朝日之間は明治工業史には左記のように記されています。

朝日之間

これ第一客室即ち第一溜之間にして、飾式は仏国十八世紀末式を用ひたり。：（中略）：家具は悉く仏国産のものにして、大形のもの二個を高く懸け、椅子は革貼にして臂掛椅子十脚、中椅子十脚、小椅子八脚、長椅子四脚を備へたり。又置戸棚二個、大理石上張の大卓一個、大理石上張の臂卓一個を置けり。

赤坂離宮朝日之間は第一客室で、フランス十八世紀末様式、つまりルイ十六世紀様式の装飾が用いられています。室名の由来ともなった大きな絵画が天井に取り付けられ、柱にはノルウェー産の大理石を用いるなど豪華な内装でまとめられています。



写真1



椅子の底面ラベル



棚の底面ラベル

「明治工業史」には朝日之間に三十七点の家具が配置されたと記録されていますがそのうち、置戸棚（サイドボード）（写真1）二台、肘掛椅子（写真2）二脚が明治村に収蔵されています。棚は以



写真2

前にもご紹介させていただきましたが、扉のデザインは弓矢などを象ったブロンズ製の装飾が取り付けられています。また、肘掛椅子は「明治工業史」には「革貼」と記されていますが、実際に納められたものはビロード製で草花やリボン、背の部分には菊花の「御紋章」が織り出されています。いずれの家具にも「階上第一客室」というシールが貼られ、使用された部屋を特定する大きな手掛かりとなりました。さらに、肘掛椅子のうち一脚は「御料用」というシールが貼られており、どの時点かは特定できませんが、皇太子殿下もしくは妃殿下がご使用になられるよう区別されていたと考えられます。

孔雀之間

孔雀之間

即ち西二之間は仏国十八世紀末式なり、天井は花鳥の油絵にして左右に楽器を多く画けり。戸棚は二基あり。挿花台は一基なり。屏風は三枚折一隻ありて、座背に建てらる。卓子は円形方形楕円形の三脚あり。椅子は大小長短各種のもの二十七脚を備へたり。椅子の中には大あり、中あり、小あり、長椅子あり、マルキース（ママ）あり、臂掛二人掛あり、男女老幼のために各種のものを設けたり。



写真3



メモ1



メモ2

現在明治村で所蔵している家具の中で、旧蔵場所が一番多く特定されているのが孔雀之間の家具です。内訳はテーブル（写真3）一脚、花台（写真4）一台、肘掛椅子（写真5）二脚、子供用椅子（写真6）一脚、足置台（写真7）二脚、コンソールテーブル（写真8）一台です。

今回、孔雀之間のテーブルについて、家具製作地の特定の大きなヒントとなる情報を得ましたので、紹介させていただきます。

このテーブルは東京御所家具設計図「階上孔雀之間家具」の項、No.97の家具として掲載されているものと同じものです。テーブル下部の着脱可能な装飾部分を取り外すと手掛かりとなる一枚の小さな紙片ができました。この紙片の一面には「Paris juin 1904 (パリ 6月 1904年)」、もう一面には「Lin... 170 Faubourg St-Antoine Paris (170番地 フォーブール サンタントワーヌ通り パリ)」と鉛筆で記されています。このことから一九〇四（明治37）年パリのフォーブール

ール サンタントワーヌ通り170番地の工房（名称不明）で製作されたことがわかります。フォーブール サンタントワーヌは Guide Michelin Parisによれば、一一九八年にパリの市の城壁の外側に開設された王立修道院サンタントワーヌの周辺に形成された門前町です。一四六一年に即位したルイ十一世は新しい特権としてこの修道院に下級・上級裁判権を与えました。それによってこの町の住民はパリ市同業組合の規制を免れ、高級家具職人たちは前時代の形式からはずれた家具を製作・販売したり、王立工房の創作品を引き取って加工したり改造したりすることができたといわれます。しかし一七八九年に勃発した革命により職人たちが享受していた特権は廃止さ

れ、製作についても販売についても厳しい競争にさらされることになりました。家具職人が何を意図してこの小さな紙片をこっそりと忍び込ませたのかはわかりませんが、テーブルが製作されて百年を経た今、私たちにメッセージを残してくれたといっても過言ではありません。孔雀之間の椅子や足置台、花台は木部にややグレーがかった白色の塗装が施され、装飾部分にはさらに金色で加飾されています。また、テーブルやコンソールテーブルには木地を生かしたシェラックと思われる塗装に、さらに金の塗装やブロンズで加飾され一際華やかな印象を受けます。最近、赤坂離宮の内装や家具などの研究が徐々に進められるようになってまいりました。明治村所蔵の赤坂離宮の家具がこれらの研究の一助となれば幸いです。



写真4



写真6



写真5



写真7



写真8

ワークショップ

知ろう! 体験しよう!

明治の大発明『ガラ紡』



写真2 機械館での展示
左から手回し式ガラ紡、水車式ガラ紡、打綿機（ガラ紡に供給する撚子となる綿を打つ機械）

明治村では「鉄道寮新橋工場（機械館）」（四丁目44番地）に、手回し式・水車式の二台のガラ紡績機（以下略してガラ紡）が保存展示されています（写真2）。手回し式ガラ紡は、臥雲辰致によって発明され、明治10年の第一回国内勧業博覧会において、国産の独創性に富んだ機械として高い評価を得たものです。明治村の手回し式ガラ紡は、臥雲辰致が製作した物ではありませんが、現在国内に二台しか残っていないという点

で非常に価値あるものです。（これらのガラ紡は、「明治の博覧会と明治村展示資料について」（明治村だより32号 2003）で詳しく紹介されています。）

博物館明治村では平成16年度文化庁芸術拠点形成事業の支援を受け、解体されたガラ紡の部品を用い、体験用のガラ紡を作製しました（写真1）。現在このガラ紡を使用して糸を紡ぎ、その糸を使ってコースターを織る、ワークショップを開催しています。

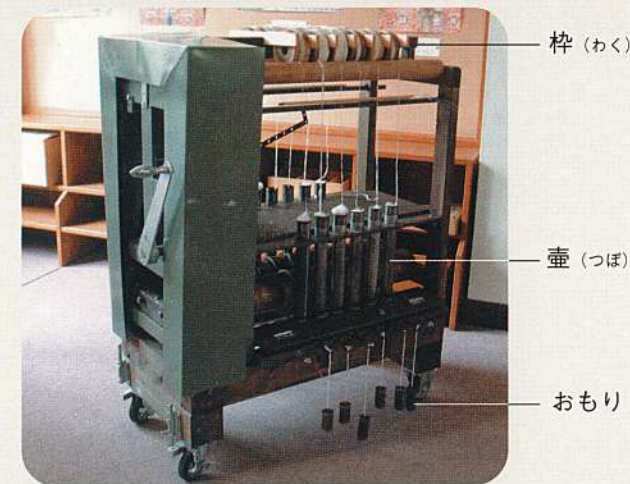
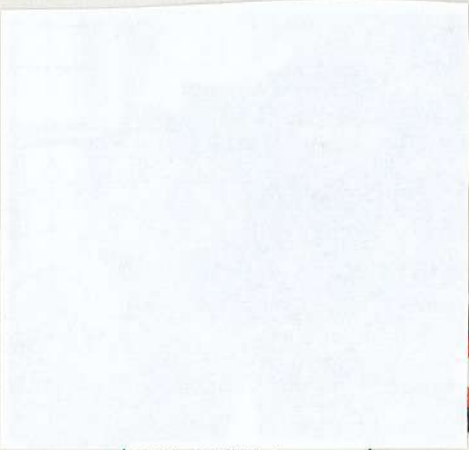
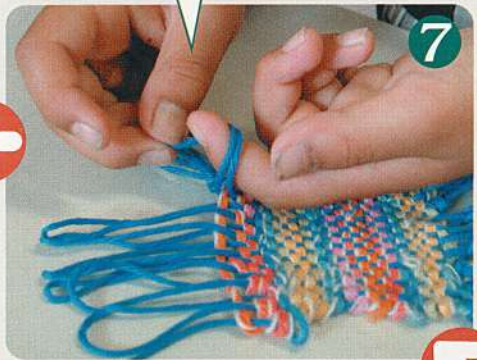


写真1 ガラ紡本体と各部名称



できあがり！
きれいにできたね。

最後の仕上げは縦糸を結んで房にするよ。もう少しで完成！



ガラ紡で紡いだ糸を横糸としてコースターを織るよ。最初は難しいけど説明を聞いてがんばってね。



織っている内にだんだん早く織れるようになるよ。誰が一番早いかな？

コースター作りでは子どもに限らず大人の方も夢中になって織っています。出来上がったコースターは記念に各自お持ち帰りいただいています。このワークショップは、単に体験だけではなく、展示されている歴史資料の理解を深めることにも一役買っています。

おわりに
生活に密着していた糸を紡いで布を織るといふ行為は、現在ではあまり身近なものとはいえなくなっています。このワークショップを通じて、「糸を紡ぐ」ということを理解していただくと共に、明治時代に日本人が独自に発明したガラ紡を再発見していただければ幸いです。

知ろう! 体験しよう! 明治の大発明『ガラ紡』

- 電話または明治村ホームページの
お問い合わせによりお申込ください。
- 10名様以上でご予約下さい

●ガラ紡の糸
ガラ紡で紡いだ糸は洋式紡績に比べて、太さにムラがでやすく、生産性や強度が劣るなどの理由から次第に衰退していききました。しかし最近ではガラ紡の糸で織った織物は、西洋式の紡績機で作った糸とは風合いが異なり、その肌触りの良さや抜群の吸湿性から、再び脚光を浴び始めています。

●紡糸の方法
まずほぐした綿を平たくして筒状に丸めた撚子よりこと呼ばれるものを、「壺」の中に詰めます。壺の中の綿に糸をつけて引き上げると、壺の回転とともに撚りがかかり、糸が紡ぎ出され、上部の「枠」に巻き取られていきます。壺の回転速度や、下部に取り付けた「おもり」を調節することにより、糸の太さを変えることができます。

●ガラ紡とは
ガラ紡とは、明治時代に臥雲辰致によって発明された糸を紡ぐ機械です。機械を動かした時のガラガラという大きな音がその名前の由来です。一人一本ずつしか紡ぐことのできなかつたそれまでの方法に比べ、一度に何本もの糸を紡ぐことのできるガラ紡は画期的な大発明といえます。



ワークショップの様子を紹介

1 私たちがガラ紡について説明します。

2 よりこ撚子を壺の中へいれます。綿詰器を使うと入れやすいよ。

3 枠に巻かれた糸を撚子の表面につけて…

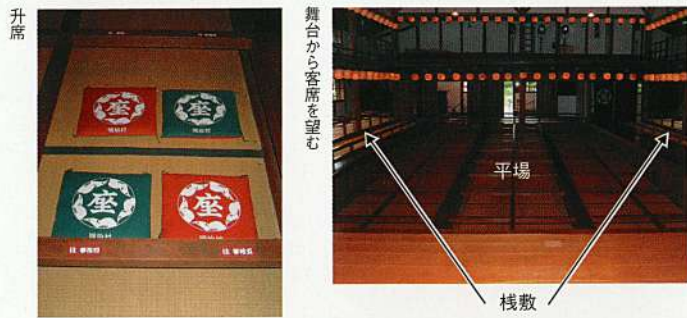
4 ハンドルを回すと糸が紡げます。ガラガラと大きな音がするよ!



2種類のワークシートもあるよ

A La Meiji-mura

「康楽館」の二階敷敷前には火鉢や靴を置くスペースが設けられ、平場にはない上客に対する配慮がうかがえます。呉服座の建っていた大阪と兵庫の県境の猪名川流域は地芝居が盛んな土地で、地元の人々は普段、神社の野天で演じていましたが、特別な時にはこの呉服座の舞台に立つことができました。また、巡業する古典演劇や大衆芸能も行われ池田周辺や能勢、丹波山地からも観客を集めました。毎年五月から六月にかけて公演される歌舞伎はそら豆の収穫期に当り、そら豆入り弁当を持参し幕間を利用して食べていたそうです。当時芝居は人々の最大の娯楽であり、こうした芝居小屋はまさに「娯楽の殿堂」でありました。



升席

舞台から客席を望む

平場

棧敷

呉服座の観客席

呉服座(4丁目35番地)は明治初年に大阪府池田市に戎座として誕生し、後に呉服座と改称、昭和四十四年まで使われていた芝居小屋です。この小屋の客席は今の劇場とは大きな違いがあります。まず中央には四角く仕切られた「升席」があります。大人が四人ほど座れる席で、「場」とか「平場」と呼ばれ今日の二階席に相当する席でした。この席は舞台に向かって緩く前傾しており、後ろの人でも無理なく舞台を見ることのできるよう配慮されています。

次に平場の両脇には「棧敷」と呼ばれる席があります。棧敷は古代社会においては「仮床」と呼ばれ神様を呼び寄せる場として作られた高い台で、神に供え物を捧げる場所としての性質も併せ持つ場でした。時代が下ると、お祭りや芸能を鑑賞するための高い位置の席を指すようになりました。芝居という言葉はもと「芝生に座る」という意味から来ていますが、その芝生の周囲に設けられた特別席が棧敷でした。現代の劇場なら中央前方が高級席ですが芝居小屋では舞台を斜めに見る事を強いられたこの席が高級席でした。愛媛県の「内子座」には上手(舞台に向かって右)の棧敷に「本家席」がありました。また秋田県小坂町にある

お洒落で衛生に配慮された明治の病院



写真1

換気は室内の空気を浄化する作用があると考えられ、(一九一〇)もその著書(注)の中で次のように記されています。「窓は、下部でなく上部を開けること。(中略)換気とは、要するに(部屋の)空気を清浄に保つこと、それだけを意味するのである。これを判定する適切な基準としては、朝、寝室あるいは病室から外気の中へ出てみることである。そして再び戻ったときに、少しでもむっと感じるようであれば換気は充分でなかった(後略)」

換気は室内の空気を浄化する作用があると考えられ、(一九一〇)もその著書(注)の中で次のように記されています。「窓は、下部でなく上部を開けること。(中略)換気とは、要するに(部屋の)空気を清浄に保つこと、それだけを意味するのである。これを判定する適切な基準としては、朝、寝室あるいは病室から外気の中へ出てみることである。そして再び戻ったときに、少しでもむっと感じるようであれば換気は充分でなかった(後略)」

換気は室内の空気を浄化する作用があると考えられ、(一九一〇)もその著書(注)の中で次のように記されています。「窓は、下部でなく上部を開けること。(中略)換気とは、要するに(部屋の)空気を清浄に保つこと、それだけを意味するのである。これを判定する適切な基準としては、朝、寝室あるいは病室から外気の中へ出てみることである。そして再び戻ったときに、少しでもむっと感じるようであれば換気は充分でなかった(後略)」

換気は室内の空気を浄化する作用があると考えられ、(一九一〇)もその著書(注)の中で次のように記されています。「窓は、下部でなく上部を開けること。(中略)換気とは、要するに(部屋の)空気を清浄に保つこと、それだけを意味するのである。これを判定する適切な基準としては、朝、寝室あるいは病室から外気の中へ出てみることである。そして再び戻ったときに、少しでもむっと感じるようであれば換気は充分でなかった(後略)」

日本赤十字社中央病院病棟(4丁目35番地)(写真1)は木造洋式病棟で、赤阪離宮と同じ片山東熊の設計で、室内の衛生を保つためとくに換気に配慮された建物になっています。

部屋の空気を清浄に保つため、病室の天井の四隅には換気口(写真2)が設けられ、屋根にある三基の換気筒へ空気を導いています。土中の湿気を避けるため、レンガ基礎を高く積み上げて地面から高い位置に床を設け(写真3)、病室内の床面には開閉自在の換気口(写真4)を備えています。

写真5 窓の換気口

写真6 外壁の換気口



写真6

写真5

写真3 床下換気口

写真4 床の換気口

写真2 天井の換気口

明治村ライトアップコンサート

日中韓の音楽家による友好の調べ

期日：7月29日(土)
会場：帝国ホテル中央玄関前芝生広場 特設野外ステージ
開場：18:30(北口) 開演：19:00 終演：20:30
料金：前売 2,000円(高校生以上)、1,000円(小中学生) 当日 2,500円(高校生以上)、1,500円(小中学生)
出演：涂善祥(中国琵琶・中国)、イムドンチャン(ピアノ・韓国)、矢野留美(ソプラノ)、矢野司空(尺八)

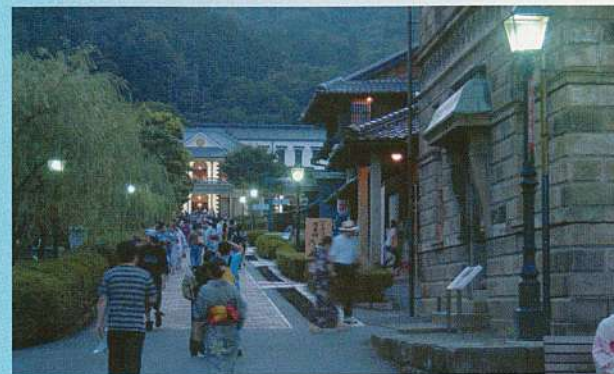
※前売券の提示で当日明治村通常入村(9:30~17:00)していただくことができます。(準備等のため、17:00にて一旦閉村させていただきます。)

※前売券の方は開場5分前より優先入村していただけます。

※当日夜の公共交通機関はございません。マイカーでのご来村をお願いいたします。(17:00以降、明治村北口駐車場無料)但し、犬山駅東口より限定無料送迎バス1往復運行(犬山駅18:00発、明治村北口20:45発)

※前売券販売箇所 楽天市場明治村店、名鉄主要駅・駅サービスセンター、チケットぴあ(ぴあ店舗、サークルK、サンクス、ファミリーマート)、名鉄百貨店(店頭・ネットショッピング)にて、~7/25まで発売。

夏の明治村 SUMMER



明治村の涼

ミスト 明治の涼霧

(森鷗外・夏目漱石住宅前、札幌電話交換局横、帝国ホテル中央玄関前、鉄道新橋工場(機械館)前)

明治の夏の暮らし(村内各所)

夏を涼しく過ごすための先人の工夫をご紹介します。

盛夏の味覚



宵の明治村

8月12日(土)~20日(日)

期間中は夜9時まで開館

浴衣の女性は終日入村無料、男性は割引料金で入村していただけます。

花火競演(帝国ホテル中央玄関前芝生広場一帯) 20:30~

夏の夜空に咲き誇る、鮮やかな花火の競演をカウントダウンとともに楽しみください。(荒天中止)

ライトアップ明治村「2006夏」

(帝国ホテル中央玄関・内閣文庫・川崎銀行本店・隅田川新大橋・菊の世酒蔵・聖サビエル天主堂・宇治山田郵便局・東山梨郡役所ほか)

明治の建物と街並、電飾の京都市電やボンネットバスが、宵の村内を美しく彩ります。



9DAYS・JAZZナイト(帝国ホテル中央玄関前芝生広場) 19:00、20:00

監獄レストラン(前橋監獄雑居房)

本物の監獄で味わう、涼しげなひと時をお楽しみください。

こどもナイトシアター(名鉄岩倉変電所(岩倉ホール)) 17:30~

お子様向けのDVDシアター「トムとジェリー」を上映(無料)

二丁目アート商店街(千早赤阪小学校講堂アーケード)



あそび縁日屋台(呉服座前)

インペリアルビアガーデン(帝国ホテル中央玄関前周辺)

ライトアップされた風景を眺めながらの一杯は格別です。



「吉本純情笑学校」夏の呉服座特別公演

吉本興業の芸人たちが、探検隊をテーマに繰り広げる笑いとお涙の人情芝居です。

演目「大工銀次郎の鉄道探検隊」(宵の明治村期間中毎日公演)
開演時間 11:30、13:30、14:30、15:30、18:30、19:30
(各回約30分、入替制)

観劇料 500円(小学生以上) 制作/吉本興業株式会社

宵の明治村開催中は、犬山駅からの路線バスも時間を延長して運行。

催事は予告なく変更する場合があります。悪しからずご了承下さい。